

かボーツと」、形と色に出てこなくて自分ながら焦りが出てきます。中年も過ぎボケが始まらないうちにと絵を始めてはみましたが、やってみると間口も広く奥も深い作業で、最終はどこのか何時になるのかわかりません。一つ一つ積み重ねて行こうと思っています。

東京都議会議長賞 「松煤竹造船型盛器」

(工芸) 石川重利

この度は、思いもかけず東京都議会議長賞を頂きまして誠に有難うございました。

木工芸を始めて三十四年になり、今日まで続けてきてよかったですと素直に喜びたいと思います。独学で見真似で自分の想いのまま作品創りに励んできて、最初の頃は形だけの創りに、それなりの言葉をかけて頂いたことで、今日までの積み重ねが賞へと結びついたものと思っております。

もの創りには、厳しさ、奥の深さは当然ありますが、私はまず楽しんで創作することが一番だと思っています。今回の作品は、すこし遊び心を持って屋台舟をイメージして創ってみました。

樹齢三百年余りの肥松の板を削り抜き舟形に、百五十年余り和民家の囲炉裏で燻らせた煤竹を屋根材として造り合わせた作品です。今、ここにきて年代と共に肥松も品薄、煤竹にしても入手困難となり、それぞれの作品を観られた方々は、よく材料が集まりますねとよく言われますので貴重な材料となっているのは確かです。このような状況の中でこれから何ができるか、何を求められているのか、観る人

の心に伝わり、手に持って温かさを感じる作品創りに精進してまいりたいと思っております。最後になりましたが今後の新日本美術協会の益々の発展を心からお祈りいたします。大変ありがとうございました。

新日美大賞 「歓びの奏(うた)」 (工芸)

今井孝子



第三十五回記念展におきまして、新日美大賞をいただき有難うございました。

私は、三年前に見たあの夕焼けの空が今でも忘れられない。それは、今まで経験したことのないような不思議な力を秘めているように感じました。確かな勇氣と明るい希望も芽生えてきそうに思えたのです。刻々と変化していく空を、時間のたつのも忘れて眺めていました。

今回の作品で、あの日の空が革芸で表現できないものかと思っておりました。その、たくさんの思いがこもった作品が新日美大賞になりました。

二十歳のお祝いに出掛けたアメリカ旅行で、レザークラフトに出会えて以来、普段は靴やお財布等の小物を作る事が多く、大きな額に仕上げるには毎回試行錯誤の連続です。

今年には作品が仕上がらないかも・と、富岡先生に弱音を吐くこともしばしばでしたが、仕上がった作品を眺めていると、今度は元気を与えてもらっているようにも感じます。

今回の受賞は大変嬉しく、励みになりました。そして、いつも温かく見守っていて下さる先生、家族、友人達には特別の感謝を込めてありがとうございます。

第三十五回記念賞 「心の窓(工芸)

鈴木勇



この度の震災の折には、新日本美術協会の会員の皆様には、大変ご心配をおかけしました。

お蔭さまで日常の生活を取りもどして居るところです。こんな時代だからこそ「絆」を感じてほしい、人と人とのつながりを、改めて感じて、心一つにして、これからの作品に精進してまいりたいと思っております。

記念する三十五回記念賞を頂いたことは、とても光栄に思います。

最後になりましたが、今後の新日本美術協会、そして、会員の皆様のますますの発展をお祈りいたします。有難う御座りました。

新人賞 「眠りの神と眠れる魔女」 (工芸) 戸上明子



作品の裏物語 たくさんのお褒めの中から新人賞を頂き大変光栄に思います。

サポートして下さった周囲の方々と、素晴らしい賞を下さった審査の方々に感謝致します。本当に有り難うございました。

この作品のテーマは「鎮魂」です。物語のワンシーンのような作品にしたかったのですが、三つのキャラクターを作りストーリー設定をしました。神獣の体内で眠る幼い魔女は破壊をもたらす危険な存在です。そこに眠りの神が現れ魔女の力が目覚めないよう彼女に眠りを与えます。

そして、長命で体内に異空間を持つ神獣の中に魔女を封じます。神獣は魔

女のゆりかご役を引き受け、眠りの神に見守られながら旅立ちます。今回は制作過程ひとつひとつ楽しみながら作る事が出来ました。いつかまた「眠りの神と眠れる魔女」の続編を作りたいと思えます。

第三十五回記念賞・ホルベイン賞 「越前の海」 神内 巍



越前海岸は一年を通じて美しい。夕日に輝く秋の海、寒風吹きすさぶ冬の海、暖かい

色を映して揺れる春の海、岩場に砕ける夏の間、なかでも私は夏の海が好きです。平成十九年、友人の紹介で新日美展に初出品以来、越前の海を描いてきました。荒波に削られた険しい海岸は、打ち寄せた波や反射する波が複雑に絡み合い、ぶつかり合つて砕け散る、またある時は渦を巻く、また引く波は周りの色を映して七色に染まる、その変化は多様で美しく、いつまでも飽きるものではない。

この美しい海を表現した空極の一枚を完成させるべく、これからも一層、頑張っていこうと思っております。

この度は記念すべき三十五回展で大きな賞を頂き、大変うれしく名誉に思っております。審査員始め実行委員の方々、そして京都支部の皆様、本当にありがとうございました。

支部展予告

第7回さきたま支部展

2012-2-6(月)~2-9(木) 埼玉県さいたま市大宮区 水川の杜文化館 問合せ先:村社貞夫 TEL048-559-3986

第18回京都支部展

2012-3-14(水)~3-18(日) 京都府京都文化会館5階 問合せ先:飯村君江 TEL0774-62-5090